

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第20号】

発行人 玉川隆雄

事務局 長野市西長野6ノロ

信州大学教育学部内

TEL・FAX (026) 238-4370



国立大学法人化後の 同窓会の使命について

同窓会会長 玉川隆雄

このたび三寺勝美前会長の後を引き継いで第十期会長となりました。もとより非力ではございますが、精一杯努めますので、なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、この会報も第二十号となりました。これらひとえに昭和六十二年の同窓会設立やその後の活動に御尽力くださった方々のおかげです。その方々の同窓会に寄せる思いや願いを忘れず、本年度も次のような活動を積極的に行って参りたいと思ひます。

①会報の発行 ②研究助成(学部留学生補助、同窓会員の研究補助、学生課外活動への補助) ③学部後援(教育学部・大学院への援助) ④組織充実(支部組織の活性化や会費納入依頼) ⑤長期構想(信州大学同窓会連合会への参加や基本財産運用の検討、事務電算化の推進、個人情報取り扱いの検討)

これらのうち、「⑤長期構想」に関わることですが、近年、学部や同窓会を取り巻く状況が変わってきております。一昨年に大学が法人化されましたが、それにもなつて、各学部の同窓会が「信州大学同窓会連合会」としてまとまることになりました。そして、信州大学全体の発展を支えるように求められています。「各学部同窓会の連合会」から「信州大学同窓会」の流れを感じます。それほど独立法人として歩む信州大学が多くの課題に直面し苦しんでいるのです。

一方、わが教育学部の法人化後の取り組みについては、昨年度の総会において、学部長の赤羽貞幸先生にお話をいただきました。学部の運営組織を改めたり、教育システムを工夫したりするなど、第三者の厳しい評価に耐えられるよう、たいへんご努力をなさっておられるものの、予算面等では、かなり厳しい状況にある、とのことでした。

このような状況下において、同窓会は、これからどう学部を支えるか、さらに「信州大学同窓会連合会」の一員としてどうあるべきか、これが第十期の課題であると考えています。会員の皆様にご意見をお寄せくださるよう、また、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第十期同窓会役員名簿

(平成十七年八月〜平成十九年八月)

名誉会長	赤羽貞幸
顧問	倉田稔 新井好仁 清水正 佐野昌男 中田育成 中田宣彦
会長	玉川隆雄
副会長	町田修 吉原鉄男 糟谷房枝
監事	清水厚実 矢嶋直徳
本部長	村田弘之 西村敦子 中村浩志
地区理事	別府桂 上條厚 岩田靖 下伊那 清水貫司 上伊那 小野正行 諏訪 嶺豊彦 木曾 小原貞幸 北安曇 中沢俊晴 南安曇 三澤晴男 松本 前澤隆男 佐久 佐藤明 上小 滝澤邦雄 更埴 西村健治 上水内 小柳義男 上高井 藤澤袈裟一 下高井 寺島正友 飯水 山本信行 塩筑 横山鉄雄 長野 大井正道 長野 水内エツ子 高校 春日一俊 県外 功刀道子 県外 井出良子 中嶋常博 朝間春子 山崎芳實 吉池いわ子 齊藤忠彦 西山裕一 酒井英樹
事務局	杵渕恭宏 伴真理子

第十八回 同窓会 通常総会 報告

平成十七年度の通常総会は、定例の八月十一日(木)、長野市岡田町の「ホテル信濃路」において、四十四名の出席者を得て開催された。

徳嵩雄司幹事の進行のもと、柳初美副会長の開会宣言、三寺勝美会長の開会挨拶に続いて、議長団に小田切澄男・松本清子、議事録署名人に三澤晴男・横山鉄雄の各氏を選任、書記に上條厚・酒井英樹の各氏を任命して議事に入り、次の三議案が審議された。

○第一号議案

平成十六年度事業報告、歳入・歳出決算報告及び財産目録の承認について

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局長より平成十六年度事業について、中村浩志幹事より平成十六年度歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明がなされ、また、清水厚実監事より適正に処理されているとの会計監査の結果が報告され、全員一致で承認された。

○第二号議案

平成十七年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局長より平成十七年度事業計画(案)について、中村浩志幹事より平成十七年度歳入・歳出予算(案)についての説明があり、原案どおり全員一致でこれを承認した。

(平成十七年度事業大綱)
一、同窓会報(第十九号)発行、会員・入会者への発送

二、研究助成 教育学部留学生後援会基金へ拠出、教育研究に対する補助

三、学部支援 教育学部・大学院充実にむけての援助

四、組織充実 支部組織の強化、他

五、長期構想 「信州大学同窓会連合会」への参加、総会のあり方・基本財産の運用、事務局電算化の推進と個人情報保護

○第三号議案

第十期役員の変更について



記念講演会 赤羽貞幸氏



第18回同窓会通常総会 会長挨拶

平成16年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成16年4月1日
至 平成17年3月31日

歳入合計額 6,090,255円也
歳出合計額 5,317,850円也
差引残額 772,405円也 17年度へ繰越

歳入の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 前年度繰越金	634,166	634,166	0	
2 会費	5,740,000	5,440,000	△300,000	272名入金
3 雑収入	30,000	16,089	△13,911	利子・御祝儀
歳入合計	6,404,166	6,090,255	△313,911	

歳出の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 会議費	600,000	311,192	△288,808	総会・役員会等
2 事業費	1,090,000	1,021,032	△68,968	会報・学部後援等
3 事務費	2,275,000	2,064,771	△210,229	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,806,000	1,806,000	0	雇用費等
5 雑費	140,000	114,855	△25,145	学部謝礼・御祝儀等
6 予備費	493,166	0	△493,166	
歳出合計	6,404,166	5,317,850	△1,086,316	

三寺会長より会長選挙について諮られ、玉川隆雄副会長が会長に選出された。三寺会長より、町田修・吉原鉄男・糟谷房枝会員を副会長に推薦され、全員一致でこれを承認した。玉川新会長より、配布資料によって、監事・理事・幹事が推薦され、全員一致でこれを承認した。玉川新会長より、三寺勝美前会長の顧問就任の披露があった。
議事終了後、臨席の北條舒正氏(千曲会理事長)より祝辞をいただき、傳田典順副会長の閉会宣言で総会を終了した。

ご挨拶

教育学部長

赤羽貞幸



法人化三年目を迎えた大学・学部は、これまで様々な課題をこなしながら新しい組織に生まれ変わってきました。まだまだ残された課題もありますが、新しい時代に適応した大学めざして努力しております。同窓会ならびに同窓会員の皆様には、常々教育学部の教育活動に深いご理解を賜り、ご支援ご協力をいただいておりますことに深く感謝いたします。

教員養成系の学部を取り巻く状況も、この数年間で大きく変化してきました。最も大きな変化は、教員の厳しい就職状況が退職者の増加にともない緩和されてきたことです。しかし、この状況は地方によって大きく異なっております。国としての教員養成に関わる学生定員の抑制枠も取り外され、教員養成学部の統合・再編の波も法人化とともに弱くなってきました。

一方、国の義務教育改革と関連し、制度的にもさまざまな教育改革が行われつつあります。これまでの養護・盲・聾学校をいっしょにした特別支援学校制度の創設、現職教員における免許更新制の導入、専門職大学院の設置などが我々の目前に提案されております。これらの課題は、これまで学部で検討してきました既存の教育学研究科改革や学部の将来計画とも密接に関連しており、目先のことにとらわれず学部の長期的展望を踏まえた将来計画を考えております。

このような流れの中で昨年度、二つの大きな課題

に取り組みました。一つは環境 ISO14001 の認証取得に向けての取り組みであり、もう一つは教員養成推進プログラムへの取り組みです。前者は信州大学の特色づくりの一環として大学全体で取り組むことになった課題であり、西長野キャンパスが環境 ISO14001 を取得し、エコキャンパスづくりを通して環境マインドをもった教員の養成をめざそうとしています。この認証取得に向けて教員・職員・学生が一体となり、教育学部としては全国で最初に取得することができました。

教員養成推進プログラムは、文部科学省が十七年度に大学改革推進事業の一つとして公募した「教員養成推進プログラム(教員養成GP)」です。本学では、これまで十年間の実績をベースにして、体系化してきた臨床経験科目をさらに発展させる目標を立て、『学部の理念である「臨床の知」の実現―蓄積する体験と深化する省察による実践的指導力の育成―』というプログラムを企画し応募しました。その結果、審査委員の高い評価を得て採択されました。このプログラムでは「体験を重ねるだけでは臨床の知に至らない」と言う指摘を受けて、これを科学的に追求し実践的指導力を高める方法を確立するために次のような三つの柱を立て取り組んでいます。

一、一年次からの臨床経験科目群の体系的実施の中で、体験を「知」に高める省察(リフレクション)の体系的指導を確立する。
二、教員養成・教師教育に携わる大学教員の指導力の向上を図る。
三、省察指導協力者として現職教員、省察サポートとして大学院生に関わっていただき省察の効果を高める。

これらの課題には、学部の全教職員が一体となり、お互いに課題や目標を自覚することが必要であり、一泊二日にわたる教職員合同の合宿研修を試

み、これまでにない大きな成果をあげました。また、二月には教員養成の国際的な動向や課題を研修するために、日本・アメリカ・デンマークから教員養成大学の専門家を招き、省察の方法、教員養成の課題に関する国際シンポジウムを開催し、3月には東京での教員養成フォーラムを主催し、各大学の取り組み発表、教科の専門性と実践的指導力、学校現場との連携などについて学びました。

教育学部をとりまく状況はまだまだ厳しいものがありますが、同窓会の先輩方のご支援を頼りに、学部の発展に奨励する覚悟しております。より一層のご教示ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

学部の新転任・転退職教員の紹介

【平成十七年度～平成十八年度新転任教員】

西 一夫先生(言語教育講座)

巢鴨学園中学高等学校より新任

村上千恵子先生(教育科学講座)

梅花女子大学より新任

【平成十七年度転退職教員】

漆戸邦夫先生(理数科学教育講座)

昭和四十三年十月一日着任、定年退職

小山充道先生(教育科学講座)

平成十四年四月一日着任、退職(転任)

【全学教育機構への配置換教員】

折口 築先生(スポーツ科学教育講座)

平成七年四月一日着任

勝木明夫先生(理数科学教育講座)

平成八年四月一日着任

南澤信之先生(生活科学教育講座)

平成十五年四月一日着任

同窓会情報

大学・大学院における教員養成推進プログラム
平成十七年度の取り組みについて
「臨床の知」の実現―蓄積する体験と深化する
省察による実践的指導力の育成―

「教員養成G P」実施委員長

山口 恒夫（教育学講座）

信州大学教育学部は、平成十七年度、文部科学省の「大学・大学院における教員養成推進プログラム」（以下、「教員養成G P」）に応募し採択されました。このプロジェクトは、文部科学省が大学改革の取組みを推進するために競争的環境の下で特色あるすぐれた取組みを選定・支援する「大学教育改革支援プログラム」の一環として設けられたものです（平成十七年度予算総額五・五億円）。これには全国から一〇一大学が応募し、本学も三十四大学のひとつに採択されました。本学のプロジェクトのテーマは、「臨床の知」の実現―蓄積する体験と深化する省察による実践的指導力の育成―です。

教員養成・教師教育の転換

現代の教員養成・教師教育の課題は、優れた教科指導力や学級経営の力量を備えるとともに、保護者に対する説明責任を果たし、専門家としての資質・能力を不断に向上させていく構えをもった「反省的実践家（reflective practitioner）」をいかに育成するかという点に集約されます。教師の実践的指導力を含めた専門的資質・能力は、学部段階での養成教育にとどまらず、「養成―採用―研修」という教師のライフステージ全体を通して形成されるべきであ

ることが常識になっていきます。こうした考えに立つて、学部の教員養成カリキュラムも、学部四年間で即戦力としての教師を養成する「完成教育」を目指すのではなく、採用側の要請や大学院での学修、あるいは教育委員会が行う各種研修とも連携しながら、自らの実践を振り返り、教師としての専門性を持続的に高めていける幅広い視野と研究能力を備えた専門職業人としての基礎を培うことを目指した内容へとシフトしつつあります。

本学部でもこのような基本的な視点から、学部教育の理念である「臨床の知」の実現に向け、教師の実践的指導力を入学時から卒業に至るまでどのように体系的に高めることができるかについて検討を重ね、昨年四月には「臨床経験科目群」の体系化を担う「臨床教育推進室」を発足させました。これにより、一年次の「教育臨床基礎」「地域教育演習Ⅰ」、二年次の「教育臨床演習」、三年次の「基礎教育実習」「教育実習事前・事後指導」、及び四年次の「応用教育実習」や「地域教育演習Ⅱ」などの「臨床経験科目群」が「臨床教育推進室」の統括の下に実施されるようになり、学部の全教員がその指導に参与する体制が整備されました。「教員養成G P」は、こうした本学部での教育改革の動きと軌を一にするものであり、学部や大学院教育の質の向上を後押しするものです。

「教員養成G P」の概要

採択された「教員養成G P」では、松本・長野の附属学校園、公立小・中学校及び生涯学習関係機関の協力を得て、現場での経験に種々の省察を組み合わせることで、高度な専門性に裏づけられた実践的指導力のある教員を育成するために様々な取り組みを実施しています。本プロジェクトは、以下の三本の柱によって構成されています。

- I 体験を「知」に高める省察の体系的指導
- II 教員養成・教師教育に携わる大学教員の指導力

の向上

III 学生の省察を支援する現職教員と大学院生

本学の「教員養成G P」の第一の柱は、教育現場での「体験」とその振り返り（Ⅱ省察）を組み合わせた指導の体系的実施です。医療者を目指す学生が自身の患者さんと関わる臨床の場で多くを学ぶのと同様に、教師を志す学生も学校等で子どもたちと実際に関わり、教師の仕事を目の当たりにすることによって、自らの教職観を相対化し、教師の仕事を多角的に見る目を養います。しかしこうした「臨床経験」もただ「体験」するだけで終わってしまつては効果が得られません。「ベテランの先生はどうしてあのように指導したのだろうか?」「子どもたちへの叱り方は、あれでよかったのだろうか?」と、指導教師の実践や自分の言動を振り返ることによって、自らの教育実践の根拠を問い直すことができるようになります。「臨床経験諸科目」では、一年次から専攻の教員の指導の下で、また学生同士でディスカッションを重ねて、種々の技法を学び省察を深めます。

第二の柱は、省察指導にあたる大学教員の指導力の向上です。教員の資質の向上には学部の教職員が一体となって学生の省察指導にあたる体制づくりが大切です。教育学部には極めて多岐にわたる専門領域の教員がいますが、教育実践を振り返る際には、それぞれの専門性を生かした教員が関わることで、それぞれが実りあるものになるはずですが、よくよく法曹界でも医療の世界でも「判例研究」や「症例検討」が重要であるように、自身の人間が関与する教育事象の具体的で固有名詞に迫るには授業研究や生徒指導の問題を「事例研究（ケース・メソッド）」によって探究することが重要視されています。教員のF Dを進めることによって、学部の教育的質的向上が図られます。

第三の柱は、学生の「臨床経験」の振り返りに大

大学院や附属学校園の教員を含む現職教員の力を借りるということです。現在、本学の大学院教育学研究科には、学部卒業後進学した大学院生に加え、長野県から派遣された現職教員が在籍しています。また、本学部は長野市教育委員会との協定に基づき「長野市〇〇年経験者研修」を行っています。これらの現職教員に学生の省察指導に参与してもらい、現職教員の視点から学生の実践的指導力の向上を支援してもらっています。実践経験を積んだ現職教員の関与によって、学生の省察が一層厚みを増すものになるはずです。

十七年度の取組み

「教員養成GP」のプロジェクトは平成十七年度・十八年度の二カ年にわたり「教員養成GP実施委員会」の統括の下に実施されますが、平成十七年度については、「オンライン・ビデオシステム」「ワークショップ・シンポジウム」「ハンドブック」「国内外研修」「自己評価」の各部会を中心として以下の取組みを実施し、大きな成果をあげました。

①教育学部（西長野キャンパス）と附属松本学校園間にビデオ会議システム及びハイビジョン遠隔講義システムを導入しました。これを用いて松本キャンパスに在る一年次生の「教育臨床基礎」の省察指導を西長野キャンパスの教員が遠隔で行うなど試行的な活用が始まっており、今年度以降さらに多様な活用が見込まれています。

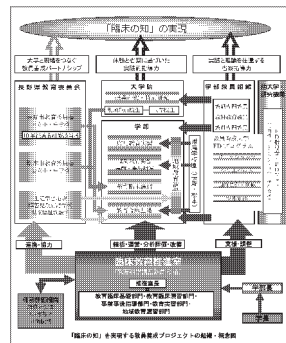
②学部の教職員の参加による合宿形式の「ワークショップ」、米国とデンマークの研究者を招いての「国際シンポジウム」、国内の教員養成GP採択大学六校による「教員養成フォーラム」及び全国の学生が集った「学生シンポジウム」など、多彩なFDプログラムの多方面との連携協力の下に実施しました。

③「臨床経験科目」と省察の意義や手法についてわかりやすく解説した『臨床経験ハンドブック』を編

集発行し、十八年度入学生全員に配布しました。この冊子は全国的に見ても画期的なもので、注目されています。

これらの活動は、本プロジェクトの評価にあたる「外部評価委員会（委員長 門脇厚司筑波学院大学長）」からも高く評価され、全国の教員養成推進プログラムのモデルともなっています。

これらの実績を踏まえ、今年度も八月に「教員養成フォーラム」と「ワークショップ」を開催するとともに、『臨床経験ハンドブック（教員用）』の発行、オンライン・ビデオシステムによる臨床経験の質の飛躍的向上を目指す取組みなど、学部教職員の参加による教員養成プログラムの実施運営を精力的に進めています。



教育学部同窓会・研究補助事業について

平成十五年度より、教育学部同窓会の研究助成事業の一環として、二十一世紀の教育を指向した、会員の日常的教育研究・教育実践活動を支援していく「研究補助」制度をスタートさせております。対象者は、信州大学教育学部同窓会会員（同窓会費納入者）で、応募者一律に一万円を補助するものです。次に掲げたのは、事業開始より三回目にあたる平成十七年度における補助金交付者並びに研究テーマに関する一覧です。

- ① 宮澤恵子（中野市立平岡小学校）
「外国語（インドネシア語）クラブ活動の実践的研究」
 - ② 安田 貢（木島平村立木島平中学校）
「PICマイコンを使用した、ものづくり・情報融合教材の研究」
 - ③ 田中裕美（山ノ内町立南小学校）
「楽曲の持つ良さや音楽的諸要素に気づき、友だちと関わり合いながら、表現していこうとする児童の育成について」
 - ④ 有坂昌彦（須坂市立小山小学校）
「実感できる理科学習にせまるための教材の開発をどう進めるか」
 - ⑤ 村上晃司（中野市立永田小学校）
「自らの記録や技能の伸びが実感できる教材の開発」
 - ⑥ 小林真美子（中野市立豊井小学校）
「動作性の向上に向けての取り組み」
- 本号では、二名の交付者の声を紹介しています。参考にしていただき、積極的なご応募をお待ちしております。同窓会ホームページをご覧ください。
- （教育学部同窓会事務局）

研究補助助成の研究について

平岡小学校 宮澤恵子先生

私は、夫の在外教育施設への派遣に伴い、三年間インドネシアで過ごしました。日本人学校の子どもたちやインドネシアの子どもたちと触れ合う機会を得る中で、子どもたちがどのように異文化理解をしていくかを研究したいと考えるようになりました。

昨年度、再採用され中野市立平岡小学校に勤務することになり、児童が異文化理解とコミュニケーション能力を高めていくためには、いろいろな国・人とのめぐり合いの機会を増やしていくことが必要だと考え、そのような子どもたちの育成を目指して「インドネシア語クラブ」を設立しました。どのような内容を、どのような提示の仕方、どのような資料を用いていけば、子どもたちの中での日本と異文化との距離が縮まっていくかを研究していきたいと考えました。研究していくインドネシア語クラブの内容として

- ・インドネシア語会話の実践（簡単なあいさつ、自己紹介、動物や食べ物の名前、お金と買い物）
- ・インドネシア語の歌・民族楽器の演奏
- ・インドネシア料理の調理
- ・インドネシア語かるた作りとゲーム

を考え実践しました。年間十時間の実践でしたが、子どもたちが目を輝かせて「インドネシア」という国について学習でき、これからもっといろいろな国についても知っていききたいと感想をまとめました。

今年度は担任する四学年の学級で「総合的な学習」（国際理解教育）として『ようこそインドネシア』という単元を設定し学習を進めています。五月末に起こったジャワ島中部大地震を知った子どもたちはインドネシアに住む人を助けようと募金活動を積極的に行いました。日々のつたない実践ですが、研究助成を受けたことで、広がりのある教育研究につながっていると感じ、感謝しております。

研究補助助成を受けて

木島平中学校 安田 貢先生

信州大学同窓会にこのような制度があることをHPで知りました。十名限定なので外れるかもしれないと思いましたが、意外にも助成をうけられることになりました。お陰さまで教材開発のための材料をそろえることができました。

研究は、中学校技術・家庭科の授業における「技術とものづくり」「情報とコンピュータ」の二つの領域にまたがる授業展開ができる教材を開発するものでした。

具体的には、低価格化進んだPICマイコンと高輝度LEDを使い、バーサライタ&イルミネーション（目印灯）を全三十五時間で完成させるための教材について以下のことを研究しました。

- ① 生徒が理解しやすく、失敗しないように組み立てやすい回路にすること。
- ② 完成後、家に持ち帰って日常的に使用できる魅力ある教材にすること。
- ③ 点灯プログラムを簡単にプログラミングできるアプリケーションを開発すること。
- ④ 二領域の指導目標が網羅された単元展開と評価の検証。

このうち、①については基板の回路を作り直し、部品の間隔を広げること、はんだづけしやすいうちに改良することができました。

②については、単なるおもちゃで終わるのではなく、実用的な使用ができるように回路と点灯の仕組みを工夫し、ケースに収納することで外見上の魅力を増すことができました。

③④については、まだ研究の途中になっていきます。

最後になりましたが、同窓会にこのような制度があり、その恩恵を受けられたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

同窓会の個人情報について

ご承知のように、平成十七年四月一日から個人情報保護法が施行されました。これまでも、同窓会としましては個人情報の保護に万全を期してまいりましたが、今後も個人情報の保護の確保に努めてまいります。

(同窓会事務局)

同窓会の個人情報の取り扱いについて

教育学部同窓会は、個人情報の重要性を充分認識し、個人情報に関する法令等を遵守し、同窓会で扱う個人情報の取得・利用・管理を適正に行います。

一、個人情報の利用目的

同窓会では提供いただいた個人データについて、会員との連絡のために利用させていただいたり、同窓会からの会報の送付、催し物の案内に利用させていただきます。

二、個人情報の第三者提供

卒業生（同窓会会員）名簿の発刊等で、発行機関に会員の個人データを提供する場合があります。なお、この場合には個人データの提供については会員個人の承諾を得た上で行います。

三、個人情報の正確性の確保

同窓会は個人データを正確且つ最新の内容を保つよう努めます。

四、個人情報の保護

同窓会員の個人情報を適切に管理し、不当なアクセスや個人情報の紛失、破壊、改ざん、漏洩に必要な予防措置及び安全対策を講じます。

五、同窓会自身自身の個人データについて、開示、訂正、削除等を求められるときには、個人情報保護法等の定めるところ、ならびに同窓会の定める手順により対応させていただきます。

就職状況

学生・就職部長 齊藤寛海

学部の機構変革により、今年四月に従来の学生委員会と就職委員会が統合され、「学生・就職部会」が誕生した。構成員数は、従来の委員会のほぼ一つ分だから、職務内容に対しては半減したことになる。学生・就職問題はますます重要性が増大している。担当としてこの変革には懸念を抱く。

今年三月の学部卒業生は、就職率が八九・一（昨年度八九・四）%、教員就職率が六一・六（同六七・四）%。就職率の維持、教員就職率の低下が気になる。教員就職率低下の主因は、長野県の教員採用数が減少したことであり、それはとりわけ定年退職者数の減少に由来する。教員採用の単位をなす都道府県および政令指定都市ごとに、現職教員の年齢構成には顕著な差異がある。長野県は、当分の間退職者が少数に留まり、したがって採用者数が伸び悩む傾向にある。他方、東京や大阪などは採用者数が増大している。岐阜県もそうであり、今年五月には岐阜県から担当者が来学し、勧誘のための講演をしたが、近年は見られなかった現象である。

学部学生の就職についてはこうなるだろう。①従来長野県の採用者のうち、学部卒業生の割合は約四分の一だったが、これは固定されたものではないので、学生の努力によってこの割合を拡大すること。②他の都道府県等を積極的に受験すること。③（狭義の）教員以外の職場に進出すること。

この状況にどう対応するか。学生一人一人が真剣に考え、勇気をもって挑戦するしかないだろう。そこに学生生活の結果があらわれるはずである。学生・就職部会も、模擬面接試験などを実施し、学生を支援していくのは従来通りである。

平成17年度卒業生・修了生 進路状況

平成18年3月31日現在

Table with columns for '就職・進学別' (Employment/Advanced Study), '就 員 職 者' (Employment/Profession), '進 学 者' (Advanced Study), and '合 計' (Total). Rows include various departments like '臨床学校' (Clinical School), '社会科教育' (Social Studies Education), '音楽教育' (Music Education), etc., with counts for each category.

(注) () は臨採で内数、○は外国人留学生で内数

就職率(学部) 89.09% (進学者を除く)
教員就職率(学部) 70.45% (進学者を除く)
教員養成課程卒業生に対する教員就職率 61.61%

信州大学教育学部同窓会

第十九回通常総会(通知)

日時

平成18年8月11日(金)

午前10時より

会場

長野市岡田町「ホテル信濃路」

次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
5. 議事

第一号議案 平成17年度事業報告及び歳入・歳出決算報告について

第二号議案 平成18年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について

第三号議案 役員人事について

6. 来賓祝辞・代表挨拶

7. 閉会宣言

記念講演会: 12時より

講師: 坂本正夫

祝賀懇親会: 13時より

記念講演(一般公開)

出合いで育った

御池山隕石クレーター

自然・文献・人物との出合いから

飯田市立下久堅小学校長

坂本正夫氏



長野市に生まれ育って、新形で下伊那郡南信濃村(現飯田市)の山村の小学校に赴任しました。その大地は、県内最古の部類に属する約二億年前の地層からなり、学校の裏山には日本列島最長の中央構造線が走っていました。この大地の雄大さに惹かれて、休みを利用しては学校の周辺から地質調査を始めました。調査がどんどん山奥に進んでいった時、不思議な半円形地形に出会いました。そこからクレーター研究が始まりました。

世界中から文献を集めて読みながら、たくさんの大学や研究機関の協力を頂き、ようやく国際学会で発表することができるようになりました。しかし、研究は未完成で継続しています。

御池山隕石クレーターは、約三万年前の最終氷期に、標高約二千メートルの山岳地域に、直径約四十メートルの小惑星が衝突し、直径約九百メートルの円形地形ができたと考えています。

プロフィール

- 一九四七年 長野市柳原生まれ
- 一九七一年 信州大学教育学部小学校課程卒業
- 一九七一年 下伊那郡南信濃村木沢小学校勤務
- 一九九二年 松川町派遣社会教育主事
- 二〇〇四年 根羽村立根羽小学校長
- 二〇〇六年 飯田市立下久堅小学校長

【研究テーマ】

- ①赤石山脈の秩父帯の地質学的研究、②赤石山脈を走る活断層としての中央構造線の研究、③御池山隕石クレーターの研究、④古根羽火山の活動復元の研究。

【主な著書】

「長野県地学ガイド」コロナ社。「信州の大地の生い立ち」県地学教育研究会。「伊那谷の自然」建設省。「天竜川上流域地質解説書」建設省。「下伊那誌地質編」下伊那誌編纂会。(以上共著)

事務局便り

○研究補助受付中

教育研究補助申請を四月より受け付けております。多くの皆様の申請をお待ちしております。当該年度の十一月末日を応募締め切りとしています。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。

○住所変更を忘れずに

転居の際には住所変更の届を事務局宛にお願い致します。お送りした会報が宛先不明で多く戻ってしまいます。メールでも結構です。

○会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いに注意してください。

同窓会の会費は終身会費です。会報が夏の総会前(七月)にお手元に届いた方は納入済みです。二重払いされた会費はお返ししますが、振り込み手数料等が引かれますので全額返金できません。



http://taaedu.shinshu-u.ac.jp
Email:kdousou@gipnc.shinshu-u.ac.jp

記念講演会終了後、「ホテル信濃路」において懇親会(会費四、〇〇〇円)を開催します。こちらへも多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。